

産業消防常任委員会会議記録

日 時 令和5年1月10日(火曜日)

午後 1時30分 開議

場 所 水戸市議会 第4委員会室

午後 2時13分 散会

付託事件

- (1) 令和3年陳情第6号, 令和4年陳情第5号
- (2) 所管事務調査

1 本日の会議に付した事件

(1) 陳情審査

- ① 令和3年陳情第6号 コロナ禍による米価下落の対策を求める陳情
- ② 令和4年陳情第5号 「水田活用の直接支払交付金」の見直しを中止し, すべての農家経営への支援策強化を求める陳情

(2) 報告事項

- ① 令和4年度 第127回水戸の梅まつりについて (観光課)
- ② 令和4年度 第44回磯節全国大会について (観光課)
- ③ 水戸市農業委員会委員候補者の募集等について (農政課・農業委員会事務局)

(3) その他

2 出席委員(5名)

委員長	飯田正美君	副委員長	後藤通子君
委員	渡辺政明君	委員	内藤丈男君
委員	五十嵐博君		

3 欠席委員(1名)

委員 安藏栄君

4 委員外議員出席者(1名)

議員 田中真己君

5 説明のため出席した者の職, 氏名

副市長	田尻充君		
産業経済部長	長谷川昌人君	産業経済部参事	川崎幹男君
産業経済部参事兼観光課長	小林一仁君	商工課長	楢崎芳明君
農政課長	後藤俊之君	農業環境整備課長	三村隆君

農産振興課長	永	盛	光	郎	君	公設地方 卸売市場長	宮	田	正	一	君	
消防局長	大	内	康	弘	君	消防次長	勝	村	俊	則	君	
消防局参事	箕	輪	重	美	君	北消防署長	石	田	宏	一	君	
南消防署長	猿	田	純	夫	君	消防総務課長	大	信	成	人	君	
火災予防課長	河	原	井		豊	君	消防救助課長	高	島	和	巳	君
救急課長	栗	原	政	人	君							
農業委員会 事務局長	横	山	英	雄	君	農業委員会 事務局次長	吉	川	正	浩	君	

6 事務局職員出席者

書	記	大	内	し	お	り	君	書	記	堀	江		良	君
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	---	---

午後 1時30分 開議

○飯田委員長 明けましておめでとうございます。

本年も昨年同様よろしく願いいたします。

それでは、定足数に達しておりますので、ただいまから産業消防委員会を開会いたします。

議事に先立ちまして、安藏委員が所用のため、欠席との連絡がございましたので、御報告いたします。

議事に入ります前に、2023年水戸の梅大使を御紹介いたします。

それでは、水戸の梅大使の紹介をお願いいたします。

○小林産業経済部参事兼観光課長 報告案件に入る前に、2023年水戸の梅大使を紹介させていただきたいと存じます。

一同、礼。

2023年水戸の梅大使を自己紹介にて御紹介させていただきます。

お手元には2023年水戸の梅大使6名の名簿がございますので、御参照いただければと思います。

なお、今回の梅大使は第61代目となります。

それでは、自己紹介のほうをお願いします。

○宮田水戸の梅大使 皆様、こんにちは。私たちは2023年水戸の梅大使です。

私は宮田和弥と申します。

○磯崎水戸の梅大使 私は磯崎風花と申します。

○椎名水戸の梅大使 私は椎名美晴と申します。

○大畠水戸の梅大使 私は大畠未蘭と申します。

○長澤水戸の梅大使 私は長澤未来と申します。

○飯田水戸の梅大使 私は飯田はなと申します。

○水戸の梅大使 どうぞよろしく願いいたします。

○小林産業経済部参事兼観光課長 では、梅大使の皆さん、マスクを外していただけますか。

この6名で水戸の観光PRに取り組んでまいりますので、皆様、1年間御指導のほどよろしくお願いいたします。

以上で2023年水戸の梅大使の紹介を終わります。

一同、礼。

では、梅大使の皆さん、マスクを着用して退室してください。

[水戸の梅大使退室]

○飯田委員長 それでは、これより議事に入ります。

初めに、陳情審査を行います。

当委員会に付託され継続審査となっております、令和3年陳情第6号 コロナ禍による米価下落の対策を求める陳情及び令和4年陳情第5号 「水田活用の直接支払交付金」の見直しを中止し、すべての農家経営への支援策強化を求める陳情につきましては、本日のところは継続審査にいたしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○飯田委員長 御異議なしと認め、継続審査といたします。

以上で陳情審査を終わります。

次に、報告事項の説明を行います。

それでは、初めに令和4年度 第127回水戸の梅まつりについて、執行部より説明願います。

小林参事兼観光課長。

○小林産業経済部参事兼観光課長 それでは、第127回水戸の梅まつりにつきまして、観光課提出の資料により御説明を申し上げます。

第127回を迎えます水戸の梅まつりにつきましては、感染の状況等を注意しつつ、現時点におきましては、感染予防対策をしっかりと講じた上で開催をしてみたいと考えております。

4の期間につきましては、2月11日土曜、祝日から3月19日日曜日までの37日間にわたり開催をしてみたいです。

6の行事でございますが、開幕日となる2月11日に黄門さま御一行や、先ほど御紹介いたしました今年の梅大使6名、「みとちゃん」により来園者を笑顔で温かくお迎えいたします。

梅まつり期間中につきましては、土曜日、日曜日を中心に野点茶会を開催するほか、武道演武や大撮影会と写真コンテストなど、これまで恒例となっておりました様々なイベントを3年ぶりに開催をしてみたいです。

また、今回の梅まつりでは、2月25日と3月4日、それぞれ土曜日でございますが、この2日間におきまして、2年ぶりとなる夜・梅・祭2023を開催するとともに、おもてなし花火を打ち上げ、多くの皆様を歓迎をしてみたいです。

さらに、梅の見頃が予想されます3月上旬には、これにつきましても、4年ぶりとなる全国梅酒まつりin水戸が3月3日金曜日から5日の日曜日、3日間にわたって開催され、140種類以上の梅酒の飲み比べ、即売会などが行われます。

恐れ入りますが、ページを返していただき2ページを御覧願います。

7のその他の行事といたしましては、第44回磯節全国大会決戦会が梅まつりの開幕と同じく2月11日に開催されます。この後、御説明申し上げる予定でございますが、この磯節につきましても、コロナ禍において2年間中止を余儀なくされておりましたが、今回、関係者との協議によりまして対策を万全にした上で3年ぶりに開催されるものでございます。

このほか、弘道館でのイベントといたしまして、正門のライトアップのほか、八卦堂・孔子廟の特別公開などが開催される予定でございます。

8のおもてなし事業・ボランティア等につきましては、歴史アドバイザー水戸による無料観光案内をはじめ、水戸黄門愛好会による写真撮影、梅大使6名によるおもてなしなどを行ってまいります。

続きまして、3ページを御覧願います。

9の広報につきましては、ポスター、パンフレット等の配布のほか、コロナの感染状況にもよりますが、観光誘客キャンペーンや梅大使による表敬訪問のほか、ホームページやSNSの活用などにより周知活動を

積極的に行ってまいります。

なお、お手元には梅まつりの周知用パンフレットを配付しておりますので、後ほど御参照いただければと思います。

次に、10の今回の見どころ等でございます。

主なものといたしまして、冒頭の行事予定でも申し上げましたとおり、2月25日は大手門広場周辺にて、そして、3月4日には偕楽園におきまして夜の観梅をお楽しみいただく夜・梅・祭2023の開催とともに、おもてなし花火といたしまして、国内最高峰の水戸の花火も御堪能いただき、多くの方々を水戸に呼び込み、飲食店、宿泊事業者、交通事業者など市内の観光関連事業者の皆様の収益にもつながるよう努めてまいります。

最後に、今回の梅まつりも、昨年に引き続きましてコロナウイルス感染予防対策を徹底しながら祭りを開催してまいります。

資料にも記載しておりますとおり、手指消毒液の設置、会場内でのマスク着用の徹底をはじめ、梅まつりに係る各行事ごとに検温を実施するなどの感染予防対策を講じまして、観光客や祭り関係者にとりましても、より安心・安全な祭りの運営に努めてまいります。

コロナ禍における梅まつりにおきましては、祭り期間そのものの縮小や様々な行事の中止など、計画した全ての取組がこれまで実施できていない状況が続いておりますので、今回の梅まつりこそは無事に開幕日を迎え、開催期間中の取組が全て計画どおりに実施できるよう、関係者と一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

説明につきましては以上でございます。

○飯田委員長 内容について、何か御質問等がございましたら発言を願います。

内藤委員。

○内藤委員 先ほど梅大使の紹介をいただきましたけれども、今回これを見ると、水戸の人が1人で、ほかの人が結構多いんだけど、大体何人ぐらい来たの、今回は。

○飯田委員長 小林観光課長。

○小林産業経済部参事兼観光課長 ただいまの内藤委員からの梅大使の募集のほうの応募の人数に関する御質問でございますが、2023年の決定に当たりまして、47名の応募がありまして6名が決定したところでございます。

○飯田委員長 内藤委員。

○内藤委員 今回は水戸の方が1人ということで、募集の中で水戸の人が少なかったの。

○飯田委員長 小林観光課長。

○小林産業経済部参事兼観光課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

今回の梅大使につきましては、名簿のとおり1名が水戸市出身となっておりますが、極端に偏っていることはなく、例年どおり、いつも同程度の割合ということで、水戸市の出身が極端に少なかったとか多かったとかというところは特にございませんでした。

○飯田委員長 内藤委員。

○内藤委員 私も当初、初めて議員になった頃、選ぶほうに呼ばれて行ったんですけども、その頃は100人ぐらい来たかな。水戸の方も結構多かったんですけども、何かこれ見ると水戸の人が1人で、それから6人ということで人数も少なくなったし、それから水戸の方も減ったということでどうしたのかなと思っただけですけども、そういうあれはないわけね。ただ来たのは来たのね。はい、分かりました。

○飯田委員長 ほかにございませんか。

五十嵐委員。

○五十嵐委員 説明いただきましたように、夜・梅・祭とか全国梅酒まつり、あるいは磯節全国大会が3年ぶりに開催ということで、本当によかったと思います。ぜひこのままいって大成功に終わらせていただきたいと思うんですけども、3年前と規模は同じふうに、何か違っているところはないふうというふうに認識してよろしいのかどうか確認です。お願いします。

○飯田委員長 小林観光課長。

○小林産業経済部参事兼観光課長 ただいまの五十嵐委員からの祭りの各行事ごとの規模感の御質問でありますが、例年と同レベルの規模に戻して開催をしてみたいと考えております。

○飯田委員長 よろしいですか。ほかにございませんか。

渡辺委員。

○渡辺委員 今ね、この年度初めに何かこの梅まつりの報告を聞くと、新しい年が始まったなというような気がいたしております。非常に今、五十嵐委員のほうからも話がありましたように、例年のコロナ禍の前に戻ったというふうなことで大変私もありがたいなと、うれしいなというふうに思っております。

今回コロナのいく末がちょっと心配というところもあるんですけども、全国的な形で見ると、今コロナがまた感染者が増えてきているところで心配なところもあるんですけども、やはりある一方、経済活動も少しエンジンをかけてレベルアップしていかないと、またその関連している企業にも大きな打撃を与えてしまうというようなことがあるので、その辺のところのバランスを取りながらしっかり進めていただきたいなというふうに感じております。

そしてまた、今、内藤委員さんのほうから梅大使の話もありましたが、私が考えるのには、できれば今後この梅まつり等をさらにレベルアップしてメジャーなお祭りにしていくというのが、私は大きな目的ではないのかなと思うんです。したがって、例えば、梅大使も全国から集められるぐらいのそういうレベルにしていけないと、いつまでも水戸という感じのものじゃなくて、やはり日本を代表するこの冬の梅が一番最初に咲く花というようなことなので、先駆けの気持ちを持って、さらに大きなイベントにしていくという大きな目的をしっかり持って進めていただければなと思います。ですから、盛りだくさんあればいいんですけども、その中で柱は何なんだというようなものも、これから明確に打ち出していくことも必要なのかなと、それは全国向けに打ち出させるような、そういうものを柱として磨き輝かしていけないと、細かいものはたくさんね、どこのイベント会場でもやっていると思うんですよ。ですから、その中でどれを目玉にして、どれを打ち出していくことがメジャーに近づく方法なのかとか、そういうのもこれからしっかり考えて取り組んでいただければと思います。何しろコロナと事故がないことを祈っておりますので、よろしく申し上げます。

○飯田委員長 よろしいですか。

次に、令和4年度 第44回磯節全国大会について、執行部より説明願います。

小林観光課長。

○小林産業経済部参事兼観光課長 それでは、続きまして第44回磯節全国大会につきまして、観光課提出の資料により御説明を申し上げます。

磯節全国大会につきましては、コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によりまして、令和2年度、3年度と中止となっておりますが、徹底した予防対策を講じ3年ぶりに開催をしてみたいと考えております。

4の予選会につきましては、2月4日土曜日と5日日曜日の2日間、ひたちなか市文化会館において実施いたします。

予選会における一般の部では268名の申込みをいただいているところであり、この参加者の中から上位30名が2月11日土曜、祝日の決勝会に進出いたします。なお、予選会につきましては、歌手、伴奏者や大会関係者など多くの参加者が見込まれることから、会場内での密を避けるため、一般の方の御観覧は御遠慮いただくこととしております。

続いて、5の決勝会でございますが、2月11日の土曜、祝日、ザ・ヒロサワ・シティ会館において実施いたします。まず、一般の部では予選会を通過した30名の中から優勝、準優勝などを決定いたします。また、少年少女の部では小学生から中学生までの参加者により、一般の部と同様の舞台で磯節を披露していただきます。さらに、アトラクションでは、特別ゲストといたしまして民謡全国大会の優勝経験者による民謡の披露などを予定しております。

(6)の入場料につきましては、前売りチケットが2,000円、当日チケットは2,500円での販売をしているほか、若い世代にも御来場いただけるよう、大学生以下は無料とさせていただき予定でございます。

6の広報につきましては、ポスター、チラシ等の配布のほか、ホームページやSNSの活用、各民謡団体によりますPRによりまして、積極的な周知を行っているところでございます。

次に、今回の見どころ等でございます。主なものといたしまして、先ほども申し上げましたとおり、決勝会では予選通過者30名の中から磯節の日本一を3年ぶりに決定するほか、民謡全国大会の優勝経験者によるアトラクションによりまして、多くの方にお楽しみいただきたいと思いますと考えております。

さらに、2月11日の決勝会を梅まつりの開幕とあわせることで、偕楽園等々の回遊を促し相乗効果を高めたいと考えております。

さらに、磯節全国大会の開催を通しまして、日本三大民謡の一つであります磯節の普及伝承を図るとともに、ゆかりの地である水戸市、ひたちなか市、大洗町の魅力のPRにも取り組んでまいります。

最後に、コロナウイルスの感染予防対策についてでございますが、記載しておりますとおり、手指消毒のほか、歌を披露するとき以外のマスク着用の徹底などの基本的対策はもちろんのこと、時間差での参加者受付、歌手と伴奏者の待機場所の分離など、密を回避する対策を講じながら安心、安全な大会の運営に努めてまいりたいと考えております。

説明につきましては以上でございます。

○飯田委員長 内容について、何か御質問等がございましたら発言を願います。

五十嵐委員。

○**五十嵐委員** これも本当に先ほども申し上げましたけれども、3年ぶりに開催ができて本当によかったと思っております。

いつも予選会というのはひたちなか市と大洗町で交互にやっていると認識しておりますけれども、前回は大洗町でやって、今回はひたちなか市ということでよろしいのでしょうか。

それで、定員が400名という中で申込みが12月16日に締め切ったときに268名の申込みということで、これはまず以前の、あるいはそのピーク時とか比較するとどのぐらいの数だったのかということ、全国大会ですから北海道から九州のほうからも来られていると思うんだけど、主にそういうところからもおいでになっているのかどうか、ちょっとその辺の詳細につきまして教えていただきたいと思います。

○**飯田委員長** 小林観光課長。

○**小林産業経済部参事兼観光課長** ただいまの五十嵐委員からの申込者の差異などに係る御質問でございますけれども、令和元年度に実施した例で申し上げますと、申込者数は313人ということでございましたので、その結果から見ますと45人の減ということになっております。また、少年少女の部でも12名の申込みがございましたが、今年度は3人ということで、やはりコロナの影響が少なからずあるのかなというふうに分析しております。

さらに、県外からの参加でございますが、割合といたしましては、県内からの参加のほうがもちろん多いところでございますが、令和元年度は89名の申込みをいただきまして、81名、県外からの参加をいただいております。対しまして、県内のほうは244名の申込みをいただきましたが、231名ということで割合といたしましては、県内のほうが大部分を占めるようにはなっております。今回につきましても、なかなか県境をまたいでの参加という部分が難しい部分がございますので、次年度以降も引き続き、多くの参加者に来ていただけるよう、積極的に周知をしていきたいと考えております。

○**飯田委員長** 五十嵐委員。

○**五十嵐委員** ありがとうございます。

コロナ禍の影響がまだまだある中でこれだけ来ていただけることはありがたいなと思いますので、しっかりと安全対策を取った上で行っていただきながら、また来年、再来年とやはり全国大会は水戸で行われる大きなイベントの一つでありますので、これを大事にいただきながら、これからはもっともっと多くの方に来ていただけるような大会にしていきたいと思います。要望です。

○**飯田委員長** ほかにございませんか。

渡辺委員。

○**渡辺委員** この第44回磯節大会ということで、内容を見ても、全国から日本三大民謡の一つの磯節というようなことでたくさん集まってきているというようなお話で大変結構なことなのかなと思っております。これね、できれば今までやってきたのが磯節という、この水戸になじみのある民謡だけになっているので、果たして全国の民謡ファンはどれぐらいいるのかというのは、私分かりませんが、今、例えば趣旨の中で、市民に広く知ってもらいたいという話があるんだけど、水戸市民の中で磯節を歌えるという人は、俺そうはいないと思うんですよ。ということが、全然日常的にはなじみがないんだよね。この日だけが磯節

大会の日になっちゃっていてね。むしろこの歌詞なんか見ると大洗だよ、まさしくね。大洗の地元の民謡ということで、本当に素晴らしいわけなんだけれども、やはり何か付加価値つけないと、これ44回もやってきているわけですから。例えば、三大民謡があるんだったら、私残りの2つ分からないんだけど、何があるんだかね。そういうのの大会もたまにはやってみたりして、要は新たなそういう何というんですかね、この理解を得るような、市民を増やしていくというようなことを、それが地元愛につながるとかという、そういう目的を、付加価値をつけていかないと、さらにレベルアップはしていかないのかなと。ただ毎年やっていますよというようなところで終わっては、市民にはなかなか広く伝わっていかないのかなと。子どもの数がさっき少なくなったというような話、もちろんコロナの影響もあるんでしょうけれども、やはり大事な日本の伝統文化の一つである民謡をやっぴりもっと知っていただくとかという努力もしていくのが大事のかなというようなことをちょっと感じたもんですから。要望というかね。今後ね、何かそういうもう少しレベルアップできるようにしていただければと、そんなことをお願いしておきたいと思います。

○飯田委員長 五十嵐委員。

○五十嵐委員 今年も県民文化センターで、ずっとこれまでやってきましたので、今年はいかなるんですけれども、来年、再来年はもう新市民会館が空いていれば、ぜひ新しいところでも開催していただきたいなと思いますので、よろしくをお願いします。

以上です。

○飯田委員長 ほかにございませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○飯田委員長 ないようですので、次に、水戸市農業委員会委員候補者の募集等について、執行部より説明願います。

後藤農政課長。

○後藤農政課長 それでは、水戸市農業委員会委員候補者の募集等について御説明いたします。

農政課と農業委員会事務局の連名で提出しております資料のほうを御覧ください。

本件につきましては、在任中の農業委員会委員の任期が令和5年7月19日をもって満了となることから、新たな委員の選任を行うため、農業委員会委員候補者の募集を行うものでございます。

募集・推薦のスケジュールにつきましては、周知期間を1月13日から2月10日、応募書類を受け付ける募集・推薦期間を2月13日から3月16日、応募者の整理、公表を3月下旬に予定しております。

募集する委員の任期は、本年7月20日から令和8年7月19日の3年間。

定数は条例の定めによりまして24人でございます。

2の選任の方法でございますが、農業委員会等に関する法律が平成27年に改正されまして、市町村長が議会の同意を得て任命する任命制となっております。

本年予定しております選任はこの制度となって3回目となります。

本市におきましては、市長が条例に基づく水戸市農業委員会委員候補者選考委員会に選考について諮問し、同選考委員会から答申を踏まえ、候補者を選定し、議会の同意を得て任命することとなっております。

(1)の選考委員会の開催につきましては、3月に委員の委嘱を行い、4月から5月に複数回、会議を開催

し、候補者の選考を行う予定でございます。

(2)の議会への農業委員会委員候補者の提案につきましては、6月の令和5年第2回定例会を予定してございます。

説明は以上でございます。

○飯田委員長 内容について、何か御質問等がございましたら発言を願います。

渡辺委員。

○渡辺委員 最近農業委員会については、報告とかそういうのはあまりないので、どんどん記憶から薄れていっちゃう、年も年なんですけれども、新しくなって3回目なんだね、今度はね。前の農業委員会のときにはいろいろ何か報告をいつやったかどうか分かりません、忘れちゃいましたけれども、どんどん薄れている中で、急にこう出てきてもなかなか、あれ、農業委員会、そう言えば、農政課と農地課があったんだっけかなとか、そんなものまで忘れるぐらいなので、たまにはそういう委員会の活動報告等もやっぱりしておくべきではないのかなということ部長のほうには話しておきます。

それと、この選考委員会というのはどういうメンバーなんですか。

○飯田委員長 吉川農業委員会事務局次長。

○吉川農業委員会事務局次長 ただいまの御質問にお答えいたします。

選考委員の構成につきましては、条例において認定農業者、それから関係団体の役職員及び学識経験者のうちから、市長が委嘱する10名以内とされてございます。現在の選考委員の構成でございますが、まず、認定農業者から1名、それから関係団体、こちらは農業団体委員からは4名出ております。それから、自治会のほうからは2名、そして学識経験者として市議会委員が1名、それから、農業委員の役職経験者、こちらから1名、そして農業行政の実務経験者から1名の合計10名となっております。

○飯田委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 その選考委員会10名のうちの例えば、その委員会を運営、いわゆる管理するのは議長さんとか会長さんとかがいるんですか。

○飯田委員長 吉川農業委員会事務局次長。

○吉川農業委員会事務局次長 ただいまの質問にお答えします。

この中で委員長、副委員長につきましては、この委員の中から互選で選ばれてございます。

○飯田委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 この条例に基づいたしっかりした選考委員会であるということが分かりましたので、今後、例えば、先ほどちょっと申しましたように、農業委員会の活動等についても、報告なり、こういうことをやってきましたとか、またこういう今、問題が発生していますとか、そういうものをしっかり伝えていただかないと、やはり選考のときだけ選考委員会の御報告があっても、ちょっとなかなか皆さん、ああそうですかとは言うだけで終わってしまっただけはね、やはり我々議員としての職務を果たせないところがありますので、常日頃の活動等も報告できるようによろしくお願ひしたいと思います。

○飯田委員長 ほかにございませんか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

○飯田委員長 ないようですので、次に、その他に入ります。

委員より何かございましたら発言を願います。

渡辺委員。

○渡辺委員 ちょっと、これね、今ちょうど会派の部屋のほうに、袴塚議員が文教福祉委員会の委員長をやっていて、今ちょうど保健所の担当の方が来ていて、いわゆるコロナで救急車へ運んでいいか分からないとか、何かいろいろコロナに関して非常に病院のほうも逼迫しちゃっていて、待っている間の時間にどんどん体調が悪くなってお亡くなりになったというようなことで大変なことになるというような話をちょっとしていたもんですから、救急車のほうも今のところ、例えば、全国のテレビのニュースを聞いていると、非常に救急の出動回数が多くて逼迫して呼んでも来ないと、いつになるか分からないとかというようなニュースが実は流れていたんですね、ずっと年末あたりから。水戸市のほうはそういう意味では先ほどの袴塚委員長さんのほうに報告があった話だと、非常に何か病院のほうも救急のほうも逼迫しているような話を聞いたもんですから、その辺のところの現況はどうなのか、まずそれを教えていただければと思います。

○飯田委員長 栗原救急課長。

○栗原救急課長 ただいまの渡辺委員の御質問についてお答えいたします。

昨年12月29日から1月3日、この6日間におきまして357件の出動がございました。1日平均で59.5件の出動がございました。対前年比でございますが、88件の増で約32.7%の増となっております。

○飯田委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 やはり全国のニュースなんかと同じように、今の話を聞くと大分救急車のほうの出動も増えていて、1日約60件か、59件だからね。やはり前にもちょっと私話したと思うんですけども、救急車を持っている台数のうち、1台が車検のために予備として置いてあるというような話だったので、それをこういう緊急のときには使うことによって、いわゆる現在動いている救急隊員さんの疲労とか、またメンタル面、そういうものを少し緩和できるんじゃないかという話をさせてもらったんですけども、その辺のところはどうなんですか。そういうときには何か予備の救急車を手配しているというようなことはあるんでしょうか。

○飯田委員長 栗原救急課長。

○栗原救急課長 ただいまの御質問にお答えします。

現在、非常用救急車を運用して実施しております。

○飯田委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 それを使わないときから見ると、幾らかはそういう救急隊員さんのほうのいわゆる疲労度とか、そういうのは和らげているというふうに理解してよろしいんですね。やはり、これコロナが落ち着くんだか、また増えてくるんだか読めない、今日のその保健所さんとの話を聞いていると、何か先がちょっと読めなくてね。いわゆる救急のほうは連絡が来てもなかなかすぐ配置できないみたいですよ、その何というんですか、本当にコロナなんだか風邪なんだか、よくそういうものがきちんと明確にコロナにならないと病棟に搬送できないとかというような話しをしていたようだったので、なかなか救急のほうもそれに合わせていくと

というのは、大変なことがこれからも続くかもしれないというようなことがありますので、そういう人的な、隊員の人たちのいわゆる疲労度とか、そういうものを本当によく見極めながら、その救急車の運用のほうをやっていただければなと思っておりますので、やはりこれ長期間になる可能性があるので、多くの人たちの手によって幾らかでもそういうものが緩やかになればありがたいなと思っていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○飯田委員長 五十嵐委員。

○五十嵐委員 ちょっと関連するかどうか分かりませんが、8日の日に晴天の下で消防出初め式が本当にすばらしくできました。暖かい中で、大勢の消防職員の方と消防団の方とか、女性防火クラブの方、お見えになって、たくさんの方が見に来てくださって、私は余り記憶がないんですが、今回は知事本人が来ているというのはちょっとびっくりしたんですけれども。そういう中で行われたんですけれども、帰り際ずっと千波公園のところに車がとまっています、みんな一堂に会しているんですけれども、それぞれの消防車があつて職員がいてと、当然なんでしょうけれども、その辺の体制というのは日頃よりは手薄になっているんですか。それとも、同じ体制でやっているのか、ちょっとお聞きしたかったんですけれども。

○飯田委員長 大信消防総務課長。

○大信消防総務課長 今、五十嵐委員のほうの御質問にお答えいたします。

おかげさまで晴天に恵まれて、盛大のうちに式典のほうは終わったというふうにもこちらも感じております。

今、委員のほうの御心配というか、当然式典のほうに並んでいる車両のほうは現場に対応できるような体制を取っている車は一部ございましたけれども、あくまで式典のほうに並んで、そちらで優先的に実施しているというものと、また消防団員さんのほうは28分団あるんですけれども、半分の車両をちょっと持ってきていただいて、半分の車両のもので千波湖で放水をして、慣例的なものになるんですが、限られた車両がある中で式典は万全を整えた中で実施しているというのが現状でございます。

以上です。

○飯田委員長 五十嵐委員。

○五十嵐委員 分かりました。今までそういう事故もなかったんですよね。いざとなったら、その来ている人も駆けつけるケースもあり得るんだと思うんですけれどもね。

今回、私もちょっと長い時間いて、煙体験だとか、いろいろなコーナーがあつてそこも見たいんですけれども、たくさんの方がいて、この今の場所が、来年は大丈夫かもしれませんが、ちょっと今度変わるようになりますよね。そのときもなかなか大変だと思うんですけれども、今のような形のコーナーを設けていただいて、年に一度、市民の方々の火災とか、そういういろいろなものを学べる絶好の機会だと思いますので、大事な一日にさせていただければと思います。

以上です。

○飯田委員長 ほかにございませんか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

○飯田委員長 それでは、以上をもちまして本日の産業消防委員会を散会いたします。

午後 2時13分 散会